

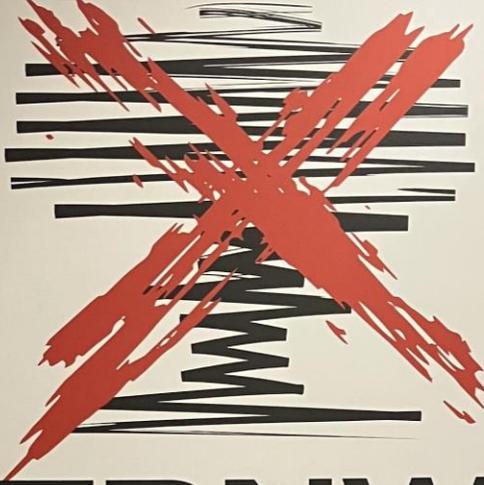
1 MSP& 関連行事

初の国際会議と「私」が見た視点

2022年7月15日
日本反核法律家協会核フォーラム

日本反核法律家協会会員/
核兵器廃絶日本NGO連絡会事務局
遠藤あかり





TPNWW

FIRST MEETING OF
STATES PARTIES

Vienna, 21-23 June 2022

目次

ユースオリエンテーションから締約国会議まで

1. ユースオリエンテーション
2. ICAN市民フォーラム
3. 核兵器の人道上の影響に関するウィーン会議
4. 締約国会議
5. ICANアドボカシー
6. ユースの活躍
7. 核禁ウィークの裏側

1. ユースオリエンテーション

アイルランド大使館開催



フッターを追加

1-1 次世代のリーダーたちが主張する核禁条約の重要性

当日タイムテーブル

- 開会の挨拶
- 国連アイルランド政府代表部大使の挨拶
- 国連オーストリア政府代表部の挨拶
- 締約国の視点：メキシコ
- ネットワーキング
- 核兵器の人道的影響と核兵器禁止条約（TPNW）：被爆者による証言（スピーカー：木戸季市、家島昌志 ファシリテーター：高橋悠太、中村生）
- 核兵器の人道的影響とTPNW：ICANと赤十字国際委員会（ICRC）の視点
- 人種・ジェンダー・核兵器の交差性（Intersectionality）を考察する
- アクティビズムという形でのアートのカ
- ユース団体からの平和メッセージ（スピーカー：高校生平和大使）
- 閉会の言葉



1-2. 国連オーストリア代表部

核兵器禁止条約への期待

現在の国際情勢は核兵器が脅威であることを示している。

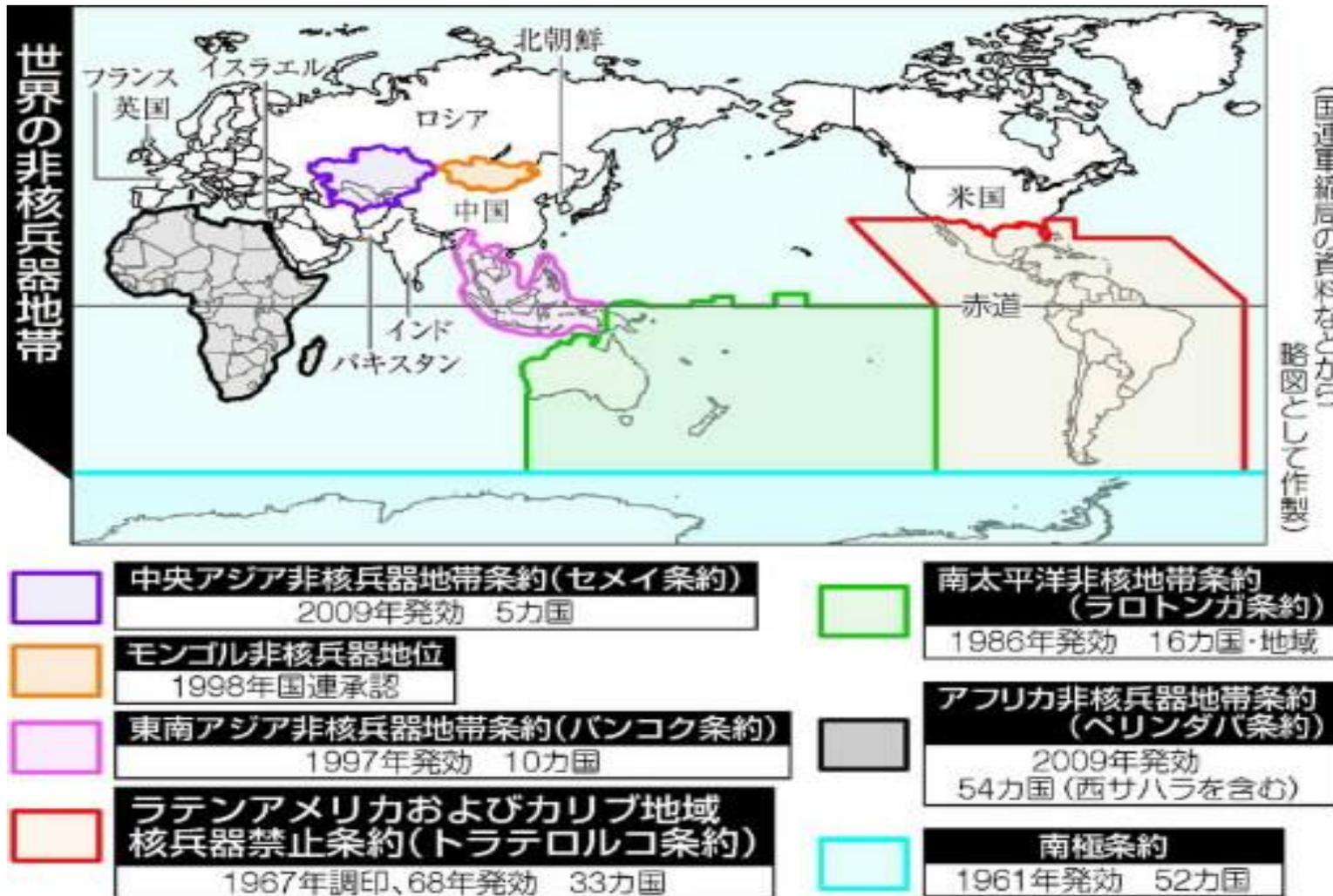
TPNWの普遍化と被害者援助に対する積極的な義務履行が求められる



1-3. 締約国メキシコ

広島・長崎での核兵器使用から、キューバ危機を経験した歴史から、メキシコは核兵器によって国の安全を守ることはできないのだと結論付けた。「楽観的現実主義 (optimistic realism)」をとっていると示した。

中南米が結んだ非核地帯 (トラテロルコ条約)にも触れ、核兵器を持たない国同士の協力したアクションが必要だと語った。



(参照) 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター
<https://www.hiroshimapecemedia.jp/?p=69274>

1-4. 核の非人道性

一言に核の非人道性というには現実
はあまりにも重い。

木戸さん、家島さんが語る言葉を
聞いていた参加者は顔をしかめた。
太平洋島嶼国からの参加者は、
核実験の被害は続いていると話した。
彼らはアートを通して自分たちの
想いを伝えた。

フッターを追加





2.ICAN市民フォーラム

6月18日～19日にかけてウィーン旧市街地で開催された。
40の企画、100名のスピーカーが集った。
600名を超える参加者が市民社会の運動を盛り上げた



18日北東アジアの非核化

- 元広島市長秋葉さんが訴える日本政府の姿勢
日本政府の言う「架け橋」を実行するためには広島・長崎の立場に寄り添わなければならない
- 元国連大使、エンサイハンさん（モンゴル）
市民と政府が協力していくことがモンゴルの一国非核兵器地帯を作り上げる時に重要であった
- 参与連帯のハン・スーヨンさん
北朝鮮の非核化が必要だが、軍事的圧力ではなく、対話でなされるべきだ
北朝鮮だけでなく、アメリカによる韓国および日本への「核の傘」をなくすことで朝鮮半島の非核化は達成できる

19日広島・長崎・南オーストラリアとのセッション

- オーストラリアからの登壇では、被爆二世への身体的影響、民族的背景が政府に無視されてきたことを涙ながらに語った。同国は前日、締約国会議へのオブザーバー参加を決めた。そのことを歓迎しつつ、TPNWへの批准を強く求めると発言
- 広島、長崎、ウィーンを繋げたセッション
- 司会を務めた浅野さんは、あまり海外では知られていない原爆小頭症の人からの声が届いてよかったと語った。
- 声を上げている人だけが被爆者ではない。私たちが知るよりもっと多くの人苦しんできた。声を挙げたくても挙げる人がいない人もいる。行政区画によって被爆者と認められていない「被爆体験者」も忘れてはいけない。

2-1.世界のキャンペーナー

ICAN市民フォーラムにて行われたたくさんのイベント。
どちらも市民社会に訴えるものだが、様々なアクションの形がある。
盛り上げる形と議論と対話を深める場があった。

自転車アクション (IPPNW)



核抑止論についての専門家によるセッション



2-2.Meet the Hibakusya / 着物外交



KNOW NUKS TOKYO が大いに活躍

フッターを追加



日本の着物に注目する人が多かった。
会話のきっかけになり、様々な繋がりを
作ったのではないかと。

(左：中村涼香さん、右：徳田悠希さん)



Vienna Conference on
the Humanitarian Impact
of Nuclear Weapons
June 20, 2022

3.核兵器の人道上の影響に関する ウィーン会議 リアルに見る経験と理論

タイムテーブル

- オープニング
- 被爆証言
- 第1セッション
核兵器のも荒らす人道上の帰結とリスク
- 第2セッション
核兵器の影響/核戦争の危険性の高まり
- 第3セッション
核抑止論

3-1. 被爆証言

- 木戸季市さん
(日本被団協事務局次長)
- 中村涼香さん
(KNOW NUKES TOKYO)
- ダニティ・ローコンさん
(MISA 4 ThePacific)



3-2. 核抑止論の限界？

クッツ主任研究員（ハンブルグ大学平和研究安全保障政策研究所）

- ・広島長崎型よりも破壊的な直接効果の社会的・心理的なグローバルな効果がもたらされ、エスカレーションに繋がる可能性がある。

- ・小型核兵器は存在しない

イレスト上席研究員（ストックホルム国際平和研究所）

- ・新たな科学技術の進展で、核抑止の脆弱性が増している。対話が重要だ

キンボール氏（米軍備管理協会）

- ・核軍縮の法定的上限がなくなってしまうと、核軍拡競争のリスクが高まる。

☆ロシアによるウクライナ侵攻の情勢を背景とした議論・意見が多かった。

☆国家の安全を核兵器によって守ることができるのか。軍拡に進むのか軍縮に進むのかの選択を迫られている。



4. 締約国会議

1日目	2日目	3日目
一般討論	一般討論の続き	科学的・技術的援助の制度化
	2条 各締約国からの申告の状況 の確認	条約実地のための会期間 の仕組み
	12条 普遍化の問題	既存の核軍縮・不拡散体制と条 約の補完性
	4条 核兵器廃絶期限の問題	ウィーン行動計画・ウィーン宣 言の採択
	6条・7条 被害者援助・環境回復の問 題	
	5条 国内的実地措置	



フッターを追加

4-1. 被爆体験を話すカザフスタンのカリップベック・クユコブさん

4-2. オブザーバー

会議で注目されたオブザーバーの
発言。

核兵器のない世界を目指しつつも、
各国の主張にも違いがみられた。

NPTとの関係性が注目される

フッターを追加



オブザーバー国：オランダ
NATO加盟国としての義務とTPNWの参加は両立しない
としつつ、対話することが重要との姿勢。

4-3. 中小国のイニシアチブ



カザフスタンとキリバス
→6条、7条の被害者援助について
ファシリテーター国を務める

オーストリア、コスタリカ、イン
ドネシア
→12条の普遍化についてファシリ
テーター国

写真はキューバ大使

キリバスの代表は“we are one
family”と会議内で歌った

5.ICANアドボカシー



6条7条の被害者救済について各国に
アドボカシーアプローチ
ドミニカ共和国の外交官（写真）



6-1. 核禁ウィークの裏側

核禁ウィーク

2022.06.17-06.24



36:53 / 1:33:14
「核禁ウィーク総まとめイベント」はじまりました。質問や応援コメント

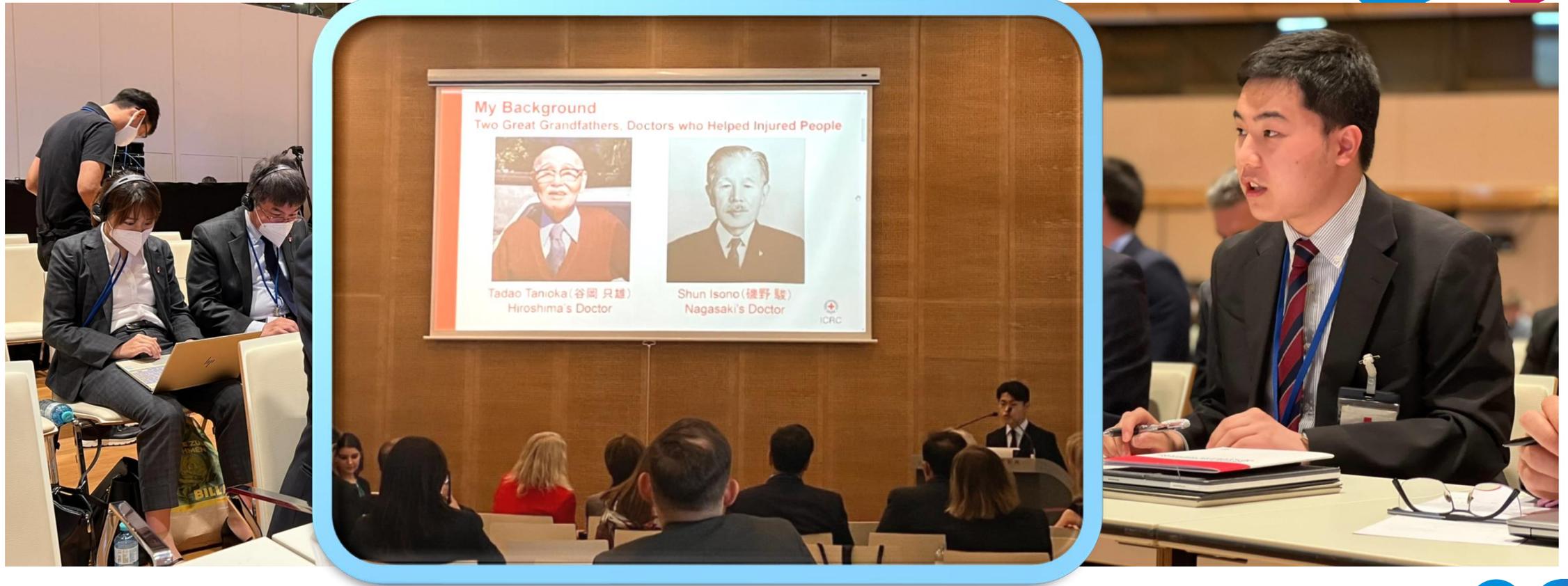
ウィーンから生中継！核禁ウィーク総まとめイベント

378 回視聴・2022/06/24 にライブ配信 29 低評価

[フッターを追加](#)



6.ユースの活躍



フッターを追加





ご清聴ありがとうございました

フッターを追加

会議の様子は核兵器廃絶日本NGO連絡会の報告文書を参照しています。

<https://nuclearabolitionjpn.wordpress.com/>